

山行NO NO. 1727  
日時 2017. 03. 04 (土) 無風快晴高温  
山域 焼岳 (2150mまで)  
コース 中の湯発6:06ー登山口6:55ーりんどう平9:11ー下掘沢ー2150m  
10:30ー下掘沢滑降ー梓川11:37ー林道ー釜トンネル12:53ー出口  
13:10ー中の湯13:20  
標高差 上り 中の湯約1520m~約2150m=約630m  
下り 約2150m~梓川約1500m=約650m  
参加者 後藤・加藤

中の湯発から出発。しばらく林道を歩き、夏道に取り付く。  
雪は多かった。夏道の取り付きは、物凄い急登。この上りに約1時間掛かった。



最初の急登

タンネの森を上る。小さな下りがあるが、なるべく下らないようにコースを選ぶ。森を抜けると、りんどう平。急に展望が広がり、焼岳が遠望出来た。水蒸気の噴出が激しい。

下掘沢上に出た。上りが急になる。雪質はやや不安定だった。しばらく降雪がなく、硬い雪面に一昨日降雪があった。それが不安定だった。スキーを蹴り込むと、表面40cmが流れる。雪崩のリスクはあった。  
時間は10時半。既に5時間近く上っていた。今シーズン、山岳スキーを本格的に再開した。その最初の山だったが、今日は、ここまでとした。

標高2150mで登行を終了し、滑降に移る。  
このころになると、下から何人かの登山者がやって来た。  
スキーヤーが一人、登山が数名だった。



りんどう平

上部の雪は良かった。  
下の硬い雪面に、新雪が積もっているなので、滑り易かった。  
滑降は速い。アツという間に、下掘沢入り口に着く。

ここで、沢を滑るか、尾根に行くか判断される。  
下掘沢はベツタリ雪が詰まり快適そう。尾根は、今年の少雪を象徴し、やや藪が出ている。  
迷ったが、結局、下掘沢に入る。  
沢はややモナカで雪は重かった。ただ、急なので勢いで持っていける。



滑降・1

下掘沢を滑るのは、2回目だが、豪快な景観に痺れる。  
ガンガン落ちていく。所々、デブリ（雪崩）跡があり  
その雪がカチカチなので滑りにくい。

まあ、しばし我慢の滑りだ。下掘沢には、堰堤が四つある。  
最初の堰堤と他二つは埋まっていた分らなかった。出て

いたのは、一番大きい堰堤だけだった。ここは右を巻いて越えた。堰堤下は、穏やかな傾斜が続く。少し滑り大休止。天気は相変わらず良く、陽光は春そのものだった。右岸に小屋が見えたが、何の小屋か分からなかった。焼岳の観測小屋かも知れない。



滑降・2

休憩後、快適に飛ばして梓川に出る。下掘沢で最大の課題はこの梓川。これを如何に渡るかである。過去、落ちて足が凍った方もいた。しかし、よく観察して、今回は何とか無事渡れた。むしろ、渡った後の林道の壁が厳しかった。



滑降・3

他の記録を読んだら、この上の橋を渡っていた。距離は1 km以上長くなるが、橋が安全といえば安全で確実。林道に上り、釜トンネルに向かう。トンネルは真っ暗で、1300mは長い。ただ、昔みたいに、下が凍っていないので有難い。旧トンネルは最悪だった。トンネルから中の湯の車にピックアップして貰い

中の湯着。ここのソバは美味しかった。今回は、今期最初の本格的  
山岳スキーだったが、課題も判明し、まあまあの成果だったと  
思いました。



下掘沢下部



梓川渡渉点



上高地林道



中の湯のソバ



中の湯露天風呂から前穂方面



露天風呂のシジュウカラ